二月の天象

太陽

月始めは寶瓶宮に在りて20日より双魚宮に入る.

日	赤經	赤緯	星座	視直徑	北極の傾	赤道の位置
0	20時52分	南17度35分	山羊座	32分32秒	西へ12度	北へ6度
10	21 33	14 34	〃	32 28	16	7
20	22 12	11 10	水瓶座	32 25	19	7

太陽の自轉軸は今後益々西へ傾いて，月末には北極は20度近く西へ傾むく．更に赤道は，太陽の視中心より北側7度の所を通ってゐるので，太陽の南極が一番よく見える頃である．從つて黑點が太陽の自轉に依り太陽面上を動く樣に見える有樣は，決して直線にならず，最も灣曲した曲線を畫いて移動する樣に見える.

月

月の相	時刻	星座	視直徑
下弦	1日午後11時10分24秒	天秤星座	29分55秒
新月	10 午前 2 55 6	山羊	30 23
上弦	17 午前 9 22 30	牡牛	32 14
滿月	24 午前 3 58 36	乙女	31 57
遠地點通過	4 午後 5 30	蝎	29 33
近地點通過	20 午後 3 30	双子	32 35

月は 5 日午後 7 時頃土星の南を通り過ぎて，9 日の正午過ぎに水星のすつと南を横ぎり，13日午前10時に天王星の南を過ぎ，續いて同日午後 5 時には金星に出合ひて矢張りその南を通り過ぎる．更に15日には午後 4 時40分木星の直ぐ南を通り，次いで19日午前 5 時過ぎには火星と非常に接近するので面白いのであるが相惜く，此の時は日本からは見えない．最後に23日午後三時に海王星の北側を過ぎて，今月の遊星歷訪を終る.

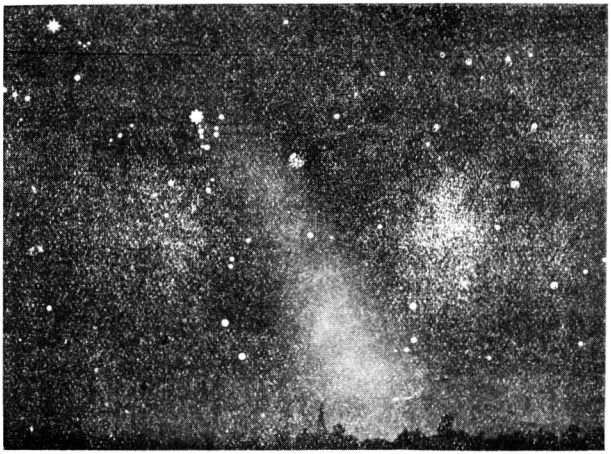
火星

	赤經	赤緯	視直徑	光度	距離	光達時間
6日	5時22分	北26度20分	11.1秒	負0.2等	0.842	6分59秒
16日	5 30	26 15	10.1	正0.1	0.930	7 44
26日	5 41	26 11	9.2	正0.3	1.002	8 30

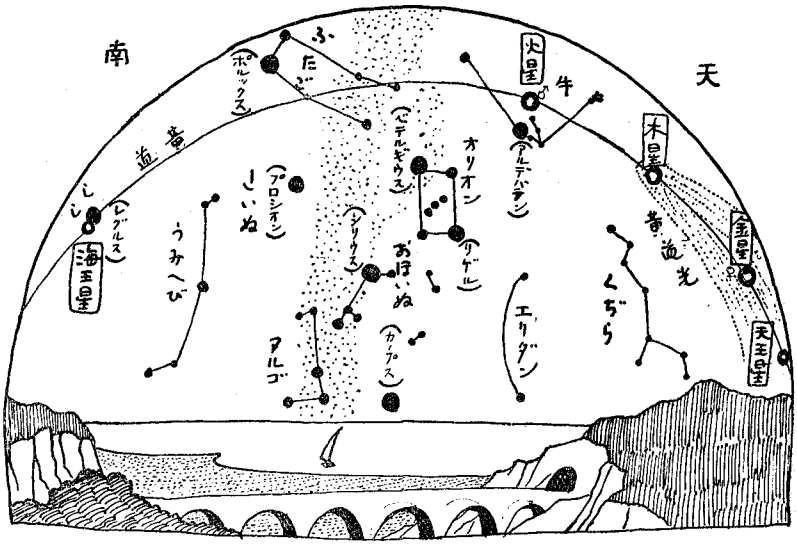
黃 道 光

黃道光の觀望には今月が最も都合がよい．既に先月には其の光度は銀河に比適し，頂點は木星近くまで延びてゐた．觀望上の注意は本年一月號の通りであるが，月光があつては駄目であるから，今月も10日頃までがよい．只だ，金星と木星とは輝きが强いため，可成り邪魔になるが，手か何かで其の光をさへぎる樣に工面したらよいであらう．又た單に見る丈でなく，其の形狀を星圖上に記入して，每日の形，光度，色等の變化を見ると面白い．殊に，此の觀測には望遠鏡等が不用であるから，素人でも少し馴れゝば，學術上價値ある觀測を爲す事が出來る．觀測を記錄する要領は，(1) 觀測せる年月日時．(2) 觀測地．(3) 觀測者．(4) 黃道光の外形を星圖に記入．(5) 光の强さ(或は明らかとか或は弱いとか)．(6) 其の時の天氣狀態(雲の有無等)．(7) 注意事項．等を記錄すれば一つの立派な觀測報告となる．會員諸氏の內で觀測報告を本會へ送つて下さる熱心家には，觀測用星圖を無代で進呈する筈．

此の黃道光と類似の現象なる對日照も，今後4月頃までは見える事と思はれるが，其の光度が非常に弱いので，空氣のよく澄んだ，燈火の眼に入らない所でなければ駄目であらう．此れの觀測も黃道光と全く同樣の要領でやれるから，觀測をおすゝめする．此の對日照の形は1月には小さく長く2月には非常に大きく圓く，3月には大きく圓く，4月には大きく稍長いと云つてゐる人もある．現はれる位置は太陽の正反對の附近である．



西 天 の 黃 道 光



遊星界

水星 は7日午後1時に太陽と内合となるので，其の前後觀望出來ない．併し19日の留の頃からは，次第に太陽より遠ざかり觀望に好都合となつて，來月始めの西方最大離角は本年中で最も大なる27度となるので，月末になる程時季はよくなる．併し曉の東天であるから，早や起きの人のみ，見得る．月末の視直徑は7秒半．光度は正0.6等級．

金星 8日午前3時に東方最大離角47度に近く，それ以後は次第に太陽に近付く樣になるが，今月中は觀望に最もよい時期である．光度は增加する一方で月末には負4.2等となり，最大光輝に近い．視直徑も增す一方で22秒半より，月末には31秒となる．10日頃，半月型で其れ以後は段々三日月型へ缺けて行く．

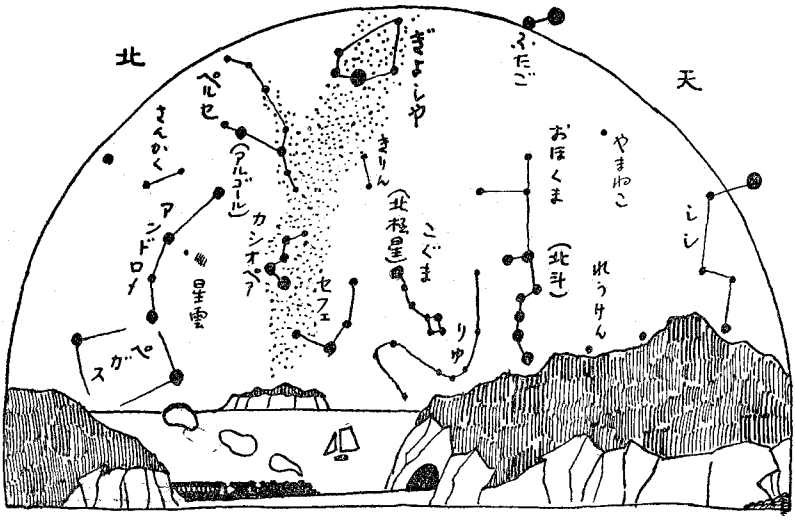
火星 夕方天頂に近く，觀望にはよいが視直徑は大分小さくなつた．

木星 丁度黃道光の頂天近くに位し，光度は月末に負1.8等となり，視直徑は大體35秒．

土星 は曉の星，射手座の西端に位する．視直徑14秒．光度正0.7等．

天王星 8日午前10時，金星と合となり金星の南2度の處に在る．

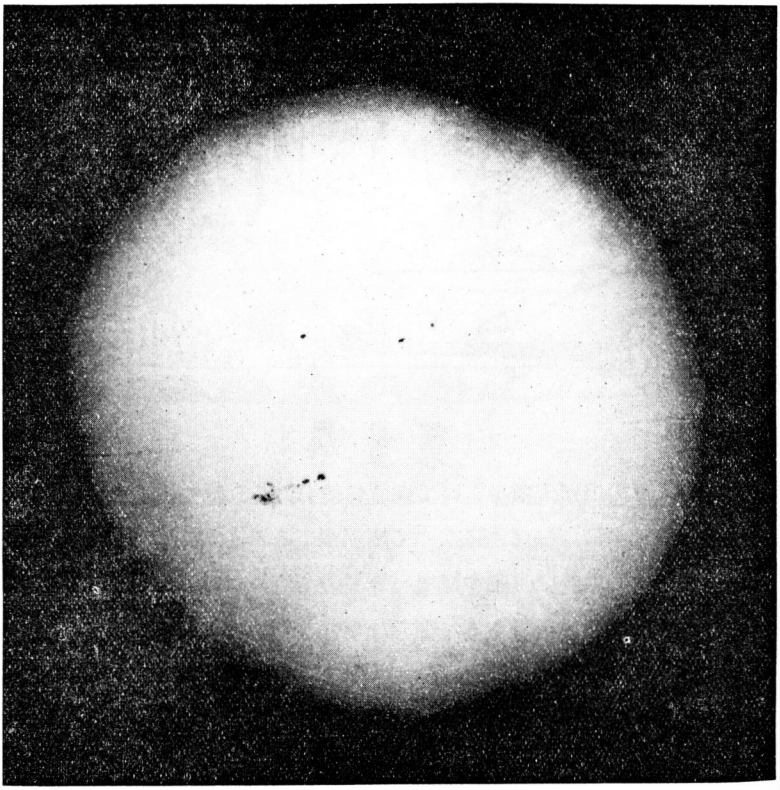
海王星 宵の東天にあり．19日正午に太陽と衝．視直徑2.5秒(最大)．



恒 星 界

丁度，天の川が天頂を貫いて南北に流れ，天の最も美はしい部分が，南半分の天空に，一ぱいになつて擴がつてゐる．寒風に吹きさらされた漆黑の空に，鋭い，刺す樣な一等星のきらめきは，如何にも嚴冬の夜にふさはしい景色である．卽ち，ポルツクス，アルデバラン，ベテルギウス，ベラトリツクス，リゲル，プロシオン，シリウス等は南の空にがんばつてゐ，東の空には旣にレグルスが現はれ，緯度の低い地方では，更にカノプスも見る事が出來る．此等一等星の間には，數多の星雲や星團が散在してゐるのみならず，遊星界の大立物たる木星や，昨年末の空を賑はした火星が點在しゐる．更に西空には魔の如き黃道光の怪異な光の中に，「美の神」金星が安らかに坐してゐる．

北の方では北斗七星が垂直になつて，北極星を中心にして，カシオペアと相對してゐる．ペガスは地平線に半ば沒して，アンドロメがこれに續き，東からは「れうけん」「しし」等が登つて來る．天頂には「ぎよしや」と「ふたご」が位置を占め，ペルセのアルゴールもまだ暫らくは觀望出來る．



1928年7月7日9時59分撮影. 上の黑點群が肉眼に見えたもの, プリントの拙づかつた爲, 非常に見にくくなつたのは殘念だつた.